



ヒイラギ

なかごころ (那珂心)



福岡市立那珂小学校
校長 池田 彰治

生き生きした那珂っ子が見られたNAKAリンピック 2020

11月24日(火)から12日間にわたって実施した『NAKAリンピック2020』。幸運にも、いずれの日も晴天、小春日和で、延期することなく9日(水)に無事に終わることができました。

この取組は、多くの行事や活動が中止あるいは制限される中、感染症対策をしながら、子どもたちが熱中し、達成感を味わえる取組が何とかできないかと考えたものの一つです。特に、6年生にとっては、一生のうち、もうやってくることのない小学校最後の年。活躍の場があり、思い出に残るものにするために、自主的な運営や応援団の活動も取り入れました。

どの学年の日も、那珂っ子が子どもらしく生き生きとした姿で活動する場面が随所に見られましたが、最上級生、そして全学年の子どもたち一人一人が、この取組で感じたものや学んだものが何かしらでもあれば、嬉しく思います。



【どの競技も、少ない人数で間隔を空けて】

1年	かけっこ、玉入れ、ダンスと、何もかもが小学校初めて。歯を食いしばって一生懸命に直線コースを駆け抜ける姿、笑顔で踊りを楽しむ姿がとても素晴らしく、印象的でした。
2年	みんなが好きな『パプリカ』の曲にのせたダンスは、とてもリズムカルでした。チェッコリ玉入れは、去年に続き2回目。腰を振るかわいらしい動きがパワーアップしていました。
3年	1、2年の運動会では直線走でしたが、今回初めてコーナーを回りました。上手に体をコントロールしていました。ダンスは自分たちで動きを考えたそうで、感心しながら見ました。
4年	初めてのリレー。上手にバトンパスをして走ることができました。的当ては、玉をうまく投げるだけでなく、作戦としてボトルの置き方を工夫しているところが大変良かったです。
5年	各係の仕事での高学年らしい動き、閉会式で赤白互いのよさを言葉と拍手にして贈った場面に感動しました。90m走では、最後まであきらめずにゴールを目指すことができました。綱引きは、力が拮抗して、大いに盛り上がりを見せていました。
6年	最上級生らしく躍動した姿がたくさん見られました。リレーでは、本番直前にもバトンパスの練習をして臨みましたが、緊迫感のあるレースが展開されました。応援団、演技係、用具係など、自分の役割をしっかりと果たし、自主的に盛り上げる姿が大変素晴らしかったです。



【子どもたちが好きですから。とおっしゃっていました】

本年度初めての参観という位置づけでしたが、それぞれの日には多くの保護者の皆様に来校していただき、ありがとうございました。お子様の様子は、いかがだったでしょうか。マスク着用、互いの距離の確保など、感染拡大防止のご協力をいただいたことにも感謝申し上げます。この難しい状況下で頑張ったお子様の様子についての感想を伝えたり、ほめたりすることをご家庭で改めてしていただきたいと思います。

また、連日、『おやし隊』の皆様に来ていただき、競技の補助や支援を行っていただきました。少ない職員での運営でしたので、とても心強く、助かりました。職員一同、お礼申し上げます。